

## 鹿児島の地質 かごしま化石発見伝 ～ 下甕島のケラトプス類化石 担当 鈴木 敏之

先日、薩摩川内市下甕島の中生代白亜紀後期(約8000万年前)の地層から角竜類恐竜(草食恐竜)の歯根化石が発見されました。

今回、発見されたのは幅12.1mm、高さ8.6mmの歯根の一部で、鹿島地区の姫浦層群の地層から見つかりました。歯の形状等の特徴から角竜の中でも北米大陸で繁栄したトリケラトプスに代表される、角が発達したケラトプス類であると考えられています。これまでに角竜類恐竜の化石は、2009年に兵庫県篠山市で原始的な角竜類「ネオケラトプス」の頭部化石が見つかりました。

今回見つかったものは、角が発達し、四足歩行だったとされるケラトプス類で、アジアでは、中国とウズベキスタンにしか発見の報



告がなく、アジア三例目の発見で国内初の発見です。ケラトプスとは「角を持つ顔」の意味があり、白亜紀前期の東アジアに起源を持つとされていますが、同後期には北米で繁栄した草食恐竜です。草木をはさみのように歯でかみ切るために恐竜の中では唯一2本の歯根を持ち、化石の形状からケラトプス類と推定されました。

北米だけでなく、アジアも角竜類の重要な進化の場所であることを示す貴重な発見で、今後、ケラトプス類の進化や生態を解き明かす貴重な資料とされます。



角竜類プロトケラトプス  
(レプリカ標本)

## 鹿児島の植物47

## まんず さく！！

植物担当 大屋 哲

2月になると「ウメの花が咲きました」「カンヒザクラの花が満開です」など、次々に花のたよりが届きます。3月と言えば、サクラよりもまず「マンサク」。この頃になるとテレビや新聞などでよく紹介されます。他の樹木に先んじて「まず咲く」ということからこの名前がついたと言われます。

鹿児島では、標高の高いところで明るい林内や開けた場所、崖地などに生えます。中でもよく話題となるのは、霧島の大浪池に見られるマンサクです。



まんサク

博物館では、2010年、2011年3月に高隈山の調査を行いました。その際、御岳と大笹柄岳の9合目、妻岳の頂上付近でマンサクが生

育しているのを確認しました。御岳では、ちょうど満開で、黄色いりボン状の花弁をつけていました。周りがまだ葉をつけていない時期なので、黄色がひときわ目立っていました。

マンサクと並んで、4月の初め頃紹介されるのが、「キリシマミズキ」です。名前の由来は、霧島山に産するということによります。霧島では、明るい場所で見られ、えびの高原でも道路沿いで川の近くに生えています。



キリシマミズキ

両種ともマンサク科の植物です。季節のたよりとしてテレビや新聞で紹介されたら、是非見に行ってみてくださいね。でも、くれぐれも安全第一で。

